

我が国の女子差別撤廃条約実施状況報告に対する最終コメントについて

平成15年9月10日

内閣府男女共同参画局

女子差別撤廃委員会（Committee on the Elimination of Discrimination against Women : CEDAW）は、本年7月8日に我が国の第4回・第5回報告を一括して審議した。

上記審議を踏まえ、8月7日（現地時間）、女子差別撤廃委員会からの我が国の報告に対する最終コメントが公表された。同最終コメントの概要は以下のとおりである。

1. 肯定的な側面

- (1) 男女共同参画社会基本法の制定や男女共同参画基本計画の策定等男女間の平等の促進に係る大きな成果
- (2) 雇用機会均等法の改正や配偶者暴力防止法の制定等様々な分野における法整備
- (3) 男女共同参画会議や男女共同参画局の設置による国内本部機構の強化
- (4) 報告作成時における女性 NGO との協力及び今後のパートナーシップ強化
- (5) WID イニシアティブの下、女性の教育、保健等に ODA の約 10% を配分
- (6) 委員会の会期に関する条約の 20 条 1 の改正受諾

2. 主要関心事項及び勧告

- (1) 女性に対する差別の定義の国内法への取り込み、差別の意味等の意識啓発
- (2) 固定的な役割分担意識の解消に向けた取組
- (3) ドメスティック・バイオレンスを含む女性に対する暴力の問題に対する取組
- (4) トラフィッキングと戦うための取組の強化、次回の報告における情報提供
- (5) 次回報告におけるマイノリティ女性に関する情報提供
- (6) 公的活動の分野、特にハイレベルの政策決定過程への女性の参画推進に向けた取組
- (7) 暫定的特別措置等を用いた労働市場における男女機会均等の実現、家庭と仕事の両立支援策の強化
- (8) 民法に存在する差別的な法規定の撤廃
- (9) 人権委員会の独立性担保
- (10) 選択議定書の批准の検討の継続
- (11) 次回報告における今回の最終コメントで提起された問題への対応
- (12) 最終コメントの内容の周知、条約等の広報
- (13) 関連国連会議等文書の実施についての情報の次回報告への盛り込み

* 最終コメントの全文（英文・和文）は内閣府男女共同参画局のホームページに掲載。

女子差別撤廃委員会からの「最終コメント」(仮訳)

(女子差別撤廃委員会第 29 回会期報告案 (CEDAW/C/2003/11/CRP.3/Add.1/Rev.1) の関連部分抜粋)

委員会の最終コメント

序論

12 .委員会は、定期報告作成のための委員会のガイドラインに従って作成された、第 4 回 5 回報告の質と期限どおりの提出について、締約国を評価する。委員会は、会期前作業部会の質問事項に対する書面回答及び締約国での近年の進展についての追加的情報を提供した包括的な口頭報告について、締約国に感謝の意を表明する。

13 .委員会は、男女共同参画局長を首席代表とした代表団が派遣されたことについて締約国を評価する。委員会は、代表団と委員との間で行われた率直かつ建設的な対話に感謝する。

14 .委員会は、締約国が、北京行動綱領の 12 重大問題領域に基づく男女共同参画基本計画を策定するにあたり、第 23 回国連特別総会「女性 2000 年会議」21 世紀に向けての男女平等・開発・平和」の成果文書を考慮に入れたことに満足をもって留意する。

肯定的側面

15 .委員会は、締約国が第 2 回 3 回報告の審議以来、男女間の平等の促進に大きな成果をあげたこと、特に、1999 年 6 月の男女共同参画社会基本法の制定及び男女共同参画政策の目標を明示した男女共同参画基本計画が 2000 年 12 月に策定されたことを祝福する。委員会はまた、基本法に基づき、すべての都道府県で計画が策定され実施されていることを称賛するとともに、まだ計画を策定していない市町村が計画策定を奨励されていることに留意する。

16 .委員会は、募集から退職に至るまでの女性への差別的取扱いを禁止し、職場におけるセクシュアル・ハラスメントを防止するための配慮を事業主に義務づける「雇用機会均等法」の改正、育児休業取得を理由とする不利益取扱いを禁止する「育児・介護休業法」の 2001 年の改正、保護命令を規定した 2001 年の「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の制定、ストーカー行為への処罰が定められた 2000 年の「ストーカー行為等の規制等に関する法律」の制定等、締約国がさまざまな分野で行った法改正に称賛をもって留意する。

17 .委員会は、男女共同参画施策の企画立案と総合調整を任務として、男女共同参画局が内閣府に設置されるとともに、それらの施策の実施状況の監視や、政府の施策が及ぼす影響の調査を行う 男女共同参画担当大臣である内閣官房長官を議長とし、閣僚と内閣総理大臣が任命した 民間有識者から構成される男女共同参画会議が設置され、国内本部機構が強化されたことを歓迎する。

18 .委員会は、委員会の前回の最終コメントで提言されたとおり、締約国が報告作成において女性 NGO と協力を行ったことを評価するとともに、そのパートナーシップを引き続き強化するとの締約国の姿勢を歓迎する。

19 .委員会は、締約国が、世界の様々な地域の開発途上国に対し、「途上国の女性支援 (WID)イニシアティブ」の下、過去 10 年間にわたり政府開発援助の約 10%を女性の教育、保健、経済 社会活動への参加に配分していることを評価する。

20 .委員会は、締約国が、委員会の会期に関する条約の 20 条 1 の改正を受諾したことに称賛をもって留意する。

主要関心事項及び勧告

21 .委員会は、憲法が両性の平等を規定してはいるが、国内法に差別の明確な定義が含まれていないことに懸念を表明する。

22 .委員会は、条約の第 1 条に沿った、直接及び間接差別を含む、女性に対する差別の定義が国内法にとりこまれることを勧告する。委員会は、また、条約についての、とりわけ間接差別の意味と範囲についての、特に国会議員、司法関係者、法曹一般を対象とした、意識啓発のためのキャンペーンを行うことを勧告する。

23 .委員会は、締約国が、長年の固定的役割分担意識が男女間の平等を達成するための大きな障害と認識していることを評価し、この点についての定期的な世論調査に基づく取組に留意する一方、日本において、家庭や社会における男女の役割と責任に関し、根深く、硬直的な固定観念が持続し、労働市場における女性の状況、教育の選択、政治 公的分野への参画の低さに反映されていることに引き続き懸念を有する。

24 .委員会は、女性と男性の役割についての従来の役割分担意識に基づく態度を変えるために、締約国が人権教育、男女平等についての教育等の教育システムにおける包括的なプログラムを策定、実施すること、また、条約についての情報や男女共同参画に対する政府の姿勢を広めることを勧告する。委員会は、締約国が調査や世論調査を性別のみならず、年齢別にも行い、その結果に基づき、子育てを母親と父親双方の社会的責任とする考え方を促進することを目指す取組を拡大することを勧告する。委員会は、意識啓発キャンペーンが

強化されること、メディアが女性のポジティブなイメージや私的、公的領域における男女の平等な地位と責任を伝えるよう奨励されることを勧告する。

25 .委員会は、締約国による、女性に対する暴力を扱う法律やその他の施策を認識する一方で、女性や女兒に対する暴力の横行及び既存の公的機関に援助を求めることに女性にためらいがあることについて懸念を有する。委員会は、配偶者暴力防止法が、現在のところ、身体的暴力以外の形態の暴力を対象としていないことに懸念を有する。委員会は、また、強姦に対する罰則が比較的寛大であること、近親姦が刑法において明確に犯罪と定義されておらず、様々な処罰規定の下で間接的に扱われていることに懸念を有する。委員会は、更に、ドメスティック・バイオレンスを受けており、かつ入国管理上の地位が配偶者との同居に依存している外国人女性の特有な状況に懸念を有する。委員会は、強制退去への恐れが、そうした女性が援助を求めたり、別居や離婚といった措置を講じる妨げとなり得ることに懸念を有する。いわゆる「従軍慰安婦」の問題に関しては、第2回3回報告の審議以前、以後にとられた措置について、締約国が提供した包括的な情報を評価しつつ、委員会は、この問題についての懸念が継続していることに留意する。

26 .委員会は、ドメスティック・バイオレンスを含む女性に対する暴力の問題に、女性に対する人権の侵害として取り組む努力を強化することを締約国に要請する。特に、委員会は、配偶者暴力防止法を拡大し、様々な形態の暴力を含めること、強姦罪の罰則を強化すること、近親姦を個別の犯罪として刑法に含めること、委員会の一般勧告19に基づき、暴力を防止し、被害者に保護、支援、その他のサービスを提供し、犯罪者を処罰するための政策を実施することを、締約国に要請する。委員会は、ドメスティック・バイオレンスを受けて別居している外国人妻の在留許可の取り消しは、その措置が当該女性に与える影響について十分に評価した後でのみなされることを勧告する。委員会は、締約国がいわゆる「従軍慰安婦」問題を最終的に解決するための方策を見出す努力を行うことを勧告する。

27 .女性・女兒のトラフィッキングに関して、アジア・太平洋地域における、送出国や中継国の捜査当局や出入国管理局との防止、捜査面での協力など、締約国が行っている取組を認識しつつ、委員会は、この問題の広がりについての情報が不十分であること、現行法下では加害者の処罰が寛大すぎることに懸念を有する。

28 .委員会は、締約国が女性・女兒のトラフィッキングと戦うための取組を強化することを勧告する。委員会は、締約国がこの問題に対処し、加害者への適切な処罰を確保するための包括的な戦略を策定することを目的として、体系的にこの事象を監視し、被害者の年齢、出身国を示す詳細なデータを収集することを要請する。委員会は、締約国が次回の報告に女性・女兒のトラフィッキング及びそれに関連してとられた措置についての包括的な情報、データを提供することを要請する。

29 .委員会は、報告に日本のマイノリティ女性の状況についての情報が欠如していることに懸念を表明する。委員会は、これらの女性グループが教育、雇用、健康、社会福祉、暴力被害の面で、彼らの共同体内も含め、直面している複合的な形態の差別や周縁化に懸念を表明する。

30 .委員会は、締約国に、次回の報告に、日本のマイノリティ女性の状況に関するデータを含む包括的な情報、特に彼らの教育、雇用、健康状況や暴力被害についての情報を提供することを要請する。

31 .委員会は、国の審議会等における女性の登用拡大のための指針及び社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%にするという数値目標が設定されたことを歓迎する一方、国会、地方議会、司法、外交官などのハイレベルの、選挙で選ばれる機関において、また市長、検察官、警察官としての女性の参加が低いことについて懸念を有する。

32 .委員会は、締約国が、公的活動のあらゆる分野、特にハイレベルの政策決定過程に女性が参画する権利を実現するため、なかでも条約の第4条1に基づく暫定的特別措置の実施を通じ、政治的・公的活動における女性の参加を拡大するための更なる取組を行うことを勧告する。委員会は、締約国が、将来の女性指導者への訓練プログラムを支援すること、男女共同参画実現のためには意志決定過程への女性の参画が重要であることを啓発するキャンペーンを実施することを要請する。

33 .委員会は、主に職種の違いやコース別雇用管理制度に表われるような水平的・垂直的な雇用分離から生じている男女間の賃金格差の存在、及び雇用機会均等法に関連する政府のガイドラインに示されている間接差別の慣行と影響についての認識の不足に懸念を有する。委員会は、更に、パートタイム労働者や派遣労働者に占める女性の割合が高く、彼らの賃金が一般労働者より低いことに懸念を有する。委員会は、主に女性が直面している個人・家庭生活と職業・公的な責任との調和における困難に深い懸念を有する。

34 .委員会は、締約国が雇用機会均等法に関連するガイドラインを改正すること、労働市場における男女の事実上の機会均等の実現を促進する努力を特に条約第4条1に沿った暫定的特別措置を用いて増すことを要請する。委員会は、特に教育、訓練、効果的な強制メカニズム、進捗状況の体系的な監視を通じて、水平的・垂直的な職務分離を撤廃するための取組がなされることを勧告する。委員会は、家族的責任と職業上の責任の両立を可能にする施策が強化されること、家庭内の仕事の男女間での平等な分担が促進されること、家庭や労働市場における女性の役割についての固定観念に基づく期待が変わることが奨励されることを勧告する。

35 .委員会は、民法が、婚姻最低年齢、離婚後の女性の再婚禁止期間、夫婦の氏の選択などに関する、差別的な規定を依然として含んでいることに懸念を表明する。委員会は、また、戸籍、相続権に関する法や行政措置における非嫡出子に対する差別及びその結果としての女性への重大な影響に懸念を有する。

36 .委員会は、民法に依然として存在する差別的な法規定を廃止し、法や行政上の措置を条約に沿ったものとするを要請する。

37 .政府が 2002 年 3 月に人権擁護法案を国会に提出したことに満足をもって留意しつつ、委員会は、法務省の下に設置されるとされている人権委員会の独立性について懸念を有する。

38 .委員会は、人権擁護法案で提案されている人権委員会が、独立機関として、女性の人権に適切に対処することが確保されるよう、国内人権機構の地位に関する原則（国連総会決議 1993 年 12 月 20 日 48/134 附属文書、いわゆる「パリ原則」）に基づいて設置されることを勧告する。

39 .第 5 回報告で締約国が表明している懸念に留意しつつ、委員会は、締約国が条約の選択議定書の批准の検討を継続することを推奨する。委員会は、選択議定書の提供するメカニズムが司法の独立を強化し、司法が女性に対する差別を理解する上での助けとなると確信している。

40 .委員会は、締約国が、2006 年が期限の次回定期報告において、この最終コメントで提起された個々の問題に対応することを要請する。委員会は、また、締約国が、性別、年齢別の包括的なデータを収集、分析し、次回報告に含めることを要請する。委員会は、また、同報告で、条約の実施においてとられた法制度、政策、プログラムの成果や影響についての情報を明らかに示すことを要請する。

41 .委員会は、一般の人々や、特に行政官、公務員、政治家に、法律上及び事実上の男女平等を保障するためにとられる措置とその分野でとられるべき追加措置について知らしめるため、この最終コメントの内容が日本において広く周知されるよう要請する。委員会は、また、締約国が、条約、選択議定書、委員会の一般勧告、北京宣言及び行動綱領、第 23 回国連特別総会 女性 2000 年会議 21 世紀に向けての男女平等 開発 平和 の成果を、特に女性団体や人権機関に対し、引き続き広く広報することを要請する。

42 .関連の国連会議、サミット、特別総会（例えば、国連人口開発特別総会、国連子ども特別総会、人種主義、人種差別、外国人排斥およびそれに関連する世界会議、第 2 回高齢者問題世界会議など）により採択された宣言、計画、行動綱領のジェンダーの側面を考慮にいれつつ、委員会は、締約国が、次回の報告に、条約の関連条項に関するそれらの文書の実施についての情報を含めることを要請する。

18 July 2003

Original: English

ADVANCE UNEDITED COPY

**Committee on the Elimination of
Discrimination against Women**
Twenty-ninth session
30 June-18 July 2003

Draft report

Consideration of reports of States parties

Rapporteur: Christine Kapalata

Japan

Fourth and fifth periodic reports

1. The Committee considered the fourth and fifth periodic reports of Japan (CEDAW/C/JPN/4 and CEDAW/C/JPN/5) at its 617th and 618th meetings on 8 July 2003.

- I. Introduction by the State party (省略)
- II. Concluding comments of the Committee

Introduction

12. The Committee commends the State party for the quality and timely submission of its fourth and fifth periodic reports, which comply with the Committee's guidelines for the preparation of periodic reports. It expresses appreciation to the State party for the written replies to the issues and questions of the Committee's pre-session working group and for the comprehensive oral presentation, which provided additional information on recent developments in the State party.

13. The Committee commends the State party for having sent a delegation, headed by the Director-General of the Gender Equality Bureau. The Committee appreciates the frank and constructive dialogue that took place between the delegation and the members of the Committee.

14. The Committee notes with satisfaction that the State party took account of the outcome document of the twenty-third special session of the General Assembly, entitled "Women 2000: gender equality, development and peace for the twenty-first century" in formulating its Basic Plan for Gender Equality based on all the 12 critical areas of concern of the Beijing Platform for Action.

Positive aspects

15. The Committee congratulates the State party for its important achievements in the promotion of equality between women and men since the consideration of the second and third periodic reports, particularly the enactment in June 1999 of the Basic Law for a Gender-equal Society and the Basic Plan for Gender Equality adopted in December 2000, which demonstrate Japan's goals for and policies on gender equality. It also appreciates that all prefectures are implementing their own plans formulated in accordance with the Basic Law and notes that municipalities that have not yet done so are being encouraged to formulate plans for gender equality at the local level.

16. The Committee notes with appreciation the law reform undertaken by the State party in several areas, including the revision of the Equal Employment Opportunity Law that prohibits discrimination against women from recruitment to retirement and obliges managers to give consideration to the prevention of sexual harassment in the workplace; the 2001 revision of the Child Care and Family Care Leave Law that prohibits disadvantageous treatment of employees because of their taking childcare leave; the 2001 Law for the Prevention of Spousal Violence and the Protection of Victims that provides for protection orders; and the 2000 Law on Proscribing Stalking Behaviour and Assisting Victims that establishes punishment for stalking.

17. The Committee welcomes the strengthening of the national machinery with the establishment of the Gender Equality Bureau within the Cabinet Office, given the task of planning and coordinating gender equality policies; and the establishment of the Council for Gender Equality chaired by the Chief Cabinet Secretary/Minister of State for Gender Equality and comprised of ministers designated, and intellectuals appointed, by the Prime Minister, which monitors the implementation of those policies and surveys the effects of government measures.

18. The Committee appreciates the State party's collaboration with women's non-governmental organizations in the preparation of the reports, as suggested in the Committee's previous concluding comments, and welcomes the State party's commitment to continue to strengthen that partnership.

19. The Committee commends the State party for allocating, under the Initiative on Women In Development, approximately 10 per cent of its official development assistance over the last decade for women's education, health and economic and social participation, to a number of developing countries in various parts of the world.

20. The Committee notes with appreciation that the State party has accepted the amendment to article 20, paragraph 1, of the Convention, relating to the Committee's meeting time.

Principal areas of concern and recommendations

21. The Committee expresses concern that, while the Constitution stipulates equality between the sexes, no specific definition of discrimination has been included in domestic legislation.

22. The Committee recommends that a definition of discrimination against women encompassing both direct and indirect discrimination, in line with article 1 of the Convention, be included in domestic legislation. It also recommends campaigns to raise awareness about the Convention, in particular the meaning and scope of indirect discrimination, aimed, inter alia, at parliamentarians, the judiciary and the legal profession in general.

23. While appreciating the State party's recognition that the long-standing stereotyped perception of gender roles remains the major obstacle to achieving equality between women and men and noting its efforts based on regular opinion polls in this regard, the Committee remains concerned about the persistence of deeply rooted and rigid stereotypes in Japan regarding the role and responsibilities of women and men in the family and in society, which are reflected in women's situation in the labour market, educational choices and low participation in political and public life.

24. The Committee recommends that the State party design and implement comprehensive programmes in the educational system, including human rights education and gender equality training, and disseminate information on the Convention and the Government's commitment to gender equality, with a view to changing existing stereotypical attitudes on women's and men's roles. It recommends that the State party disaggregate its surveys and opinion polls, not only by sex but also by age and, based on the results, increase targeted efforts at advancing the notion of parenting as a social responsibility of both mothers and fathers. It recommends that awareness-raising campaigns be intensified and that the media be encouraged to project a positive image of women and of the equal status and responsibilities of women and men in the private and public spheres.

25. While acknowledging legal and other measures by the State party to address violence against women, the Committee is concerned about the prevalence of violence against women and girls and about women's apparent reluctance to seek assistance from existing public institutions. It is concerned that the Law for the Prevention of Spousal Violence and the Protection of Victims currently does not cover forms of violence other than physical violence. It is also concerned that the penalty for rape is relatively lenient and that incest is not defined explicitly as a crime under the Penal Code but is dealt with indirectly under a number of different penal provisions. The Committee is further concerned about the particular situation of foreign women who experience domestic violence and whose immigration status might depend on their living together with their spouse. The Committee is

concerned that fear of repatriation might be a deterrent for those women to seek assistance or take steps to seek separation or divorce. While appreciative of the comprehensive information provided by the State party with respect to the measures it has taken before and after the Committee's consideration of the second and third periodic reports of the State party with respect to the issue of "wartime comfort women", the Committee notes the ongoing concerns about the issue.

26. **The Committee calls upon the State party to intensify its efforts to address the issue of violence against women, including domestic violence, as an infringement of their human rights. In particular, the Committee urges the State party to broaden the Law for the Prevention of Spousal Violence and the Protection of Victims so as to include different forms of violence, increase the penalty for rape and include incest as a specific crime in its penal legislation, and implement policies in accordance with the Committee's general recommendation 19, in order to prevent violence; provide protection, support and other services to the victims; and punish offenders. The Committee recommends that revocation of residence permits of foreign but separated married women who experience domestic violence be undertaken only after a full assessment of the impact of such measures on those women. The Committee recommends that the State party endeavour to find a lasting solution for the matter of "wartime comfort women".**

27. While recognizing the efforts made by the State party to address trafficking in women and girls, including its cooperation for prevention and investigation with law enforcement and immigration authorities in countries of origin and transit in the Asia-Pacific region, the Committee is concerned that information on the extent of the problem is insufficient and the punishment for perpetrators under current laws too lenient.

28. **The Committee recommends that the State party increase its efforts to combat trafficking in women and girls. It requests the State party to systematically monitor the phenomenon and compile detailed data reflecting the age and national origin of victims, with a view to formulating a comprehensive strategy to address the problem and ensure that penalties for perpetrators are appropriate. The Committee requests the State party to provide in its next report comprehensive information and data on the trafficking of women and girls as well as on measures taken in this regard.**

29. The Committee expresses concern about the lack of information in the reports about the situation of minority women in Japan. The Committee expresses concern at the multiple forms of discrimination and marginalization that these groups of women may face with respect to education, employment, health, social welfare and exposure to violence, including within their own communities.

30. **The Committee requests the State party to provide, in its next report, comprehensive information, including disaggregated data on the situation of minority women in Japan, especially with regard to their educational, employment and health status and exposure to violence.**

31. While welcoming the guidelines for the expansion of recruitment and promotion of women in national advisory councils and the setting of a numerical goal of 30 per cent for leadership positions in all sectors of society by the year 2020, the Committee is concerned about the low representation of women in high-level

elected bodies including in the Diet, local assemblies, the judiciary and the diplomatic service, and as mayors, prosecutors and police.

32. **The Committee recommends that the State party take further measures to increase the representation of women in political and public life through, inter alia, the implementation of temporary special measures, in accordance with article 4, paragraph 1, of the Convention, in order to realize women's right to participation in all areas of public life, particularly at high levels of policy- and decision-making. The Committee urges the State party to support training programmes for future women leaders and carry out awareness-raising campaigns regarding the importance of women's representation in decision-making for achieving gender equality.**

33. The Committee is concerned at the existing wage gap between women and men, stemming largely from the difference in type of work, horizontal and vertical employment segregation as expressed by the two-track employment management system, and the lack of understanding regarding the practice and the effects of indirect discrimination as expressed in the governmental guidelines to the Equal Employment Opportunity Law. The Committee is further concerned by the high percentage of women in part-time work and by women who are "dispatch workers", whose salaries are lower than those working in a regular situation. The Committee is deeply concerned about the difficulties faced primarily by women in reconciling their personal and family lives with professional and public responsibilities.

34. **The Committee urges the State party to amend its guidelines to the Equal Employment Opportunity Law and to increase its efforts towards accelerating the achievement of *de facto* equal opportunities for women and men in the labour market through, inter alia, the use of temporary special measures in accordance with article 4, paragraph 1, of the Convention. The Committee recommends that efforts be made to eliminate occupational segregation, both horizontal and vertical, through, inter alia, education and training, effective enforcement mechanisms and systematic monitoring of progress. The Committee recommends that measures allowing for the reconciliation of family and professional responsibilities be intensified, that equal sharing of domestic and family tasks between women and men be promoted, and that changes to the stereotypical expectations of women's roles in the family and labour market be encouraged.**

35. The Committee expresses concern that the Civil Code still contains discriminatory provisions, including those with respect to the minimum age for marriage, the waiting period required for women to remarry after divorce and the choice of surnames for married couples. It is also concerned about discrimination in law and administrative practice against children born out of wedlock with regard to registration and inheritance rights and the resulting considerable impact on women.

36. **The Committee requests the State party to repeal discriminatory legal provisions that still exist in the Civil Code and to bring legislation and administrative practice into line with the Convention.**

37. While noting with satisfaction that the Government submitted a Human Rights Protection Bill to the Diet in March 2002, the Committee is concerned about the independence of the proposed human rights commission, which would be placed under the Ministry of Justice.

38. The Committee recommends that the human rights commission proposed in the Human Rights Protection Bill be established in accordance with the principles relating to the status of national institutions for the promotion and protection of human rights (General Assembly resolution 48/134 of 20 December 1993, annex, known as the "Paris Principles") in order to ensure that it will be an independent institution and adequately address women's human rights.

39. The Committee encourages the State party to continue to consider the ratification of the Optional Protocol to the Convention, while noting the concerns expressed by the State party in its fifth periodic report. The Committee strongly believes that the mechanisms available under the Optional Protocol would strengthen the independence of the judiciary and assist it in understanding discrimination against women.

40. The Committee urges the State party to respond in its next periodic report, due in 2006, to the specific issues raised in the present concluding comments. The Committee also urges the State party to collect and analyse comprehensive data disaggregated by sex and age and to include such data in its next report. It also requests that the report highlight information on results and the impact of legislation, policies and programmes in the implementation of the Convention.

41. The Committee requests that the text of the present concluding comments be widely disseminated in Japan so as to inform the public, in particular administrators, officials and politicians, of the measures taken to guarantee *de jure* and *de facto* equality between men and women and of the supplementary measures to be adopted in that area. The Committee also urges the State party to continue to give broad publicity to the Convention, its Optional Protocol, the general recommendations of the Committee, the Beijing Declaration and Platform for Action, and the results of the twenty-third special session of the General Assembly, entitled "Women 2000: gender equality, development and peace for the twenty-first century", particularly among women's associations and human rights organizations.

42. Taking account of the gender dimensions of declarations, programmes and platforms for action adopted by relevant United Nations conferences, summits and special sessions (such as the twenty-first special session of the General Assembly to review and appraise the implementation of the Programme of Action of the International Conference on Population and Development, the twenty-seventh special session of the General Assembly on children, the World Conference against Racism, Racial Discrimination, Xenophobia and Related Intolerance and the Second World Assembly on Ageing), the Committee requests the State party to include information on the implementation of aspects of those documents relating to relevant articles of the Convention in its next periodic report.
